

## 目次

### 2023 年度 学部シラバス関連資料

“音楽芸術の研鑽”と“人間形成”	1
学部及び学科の各コースの教育研究目的	2
学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針	3
学位授与の方針との関連（音楽学部）	4

# “音楽芸術の研鑽”と“人間形成”

武蔵野音楽大学

学長 福井 直昭

わが国において未だ音楽教育の基盤が弱体であった昭和4年（1929）、西洋音楽の美に感動し、その普及と向上に強い意欲をもって取り組んだ創立者福井直秋と、彼を支えた多くの協力者たちの「和」により、本学の前身、武蔵野音楽学校は創設されました。以来、本学はこの「〈和〉のこころ」を建学の精神とし、また「音楽芸術の研鑽」と併せて「人間形成」を教育の方針として92年に及ぶ発展の歴史を刻んでおりますが、社会の新たな要請や様々な学生のニーズに対応するため、平成29年度の江古田新キャンパス竣工を機に、これまでの7学科を「演奏学科」と「音楽総合学科」の2学科に再編・統合する新たな教育体制をスタートしました。

これに伴って単位制の見直しを行い、従来の「通年制」から、各年度を2つの学期に分けてそれぞれの学期ごとに単位を与える「セメスター制」に変更しました。この見直しによりセメスターごとに履修登録から授業、試験、単位認定までを完結させる授業科目が増えるため、カリキュラムをより柔軟に組み立てることができるようになりました。

さらに新カリキュラムにおいては、各コースそれぞれの専門性を高める科目と、コースを越えて横断的に履修できる多彩な「自由科目」を設定し、演奏家、音楽指導者、さらには音楽に係わる幅広い分野で活躍できる人材の育成を目指しています。学修に際しては「アクティブラーニング」を積極的に取り入れ、学生が主体的に目標・課題を設定して授業に参画する科目を増やし、教員と学生同士が、課題発見・解決のためのディスカッションなどを通して、授業を創り上げていきます。加えて、キャリア教育として1・2年次の必修科目に「キャリアデザイン（導入編）・（展開編）」を開講し、本学の学生として必要な自覚とモラル、社会に出てから必要な各種のスキルやコミュニケーション能力等を培い、卒業後の夢の実現に向け充実したサポートを行います。

以上のような教育の方針と目的に基づいた授業の概要、そして具体的な授業の進め方と毎回の課題やその評価方法について、まとめて書かれているのがこのシラバスです。その意味では、履修登録時に読むだけでなく、学期途中にその都度その都度見返しながら、自分の学びを進めていってください。このシラバスを活用して、4年間の実りある学修を実現することを期待します。

音楽学部	<p>武蔵野音楽大学音楽学部は、本学の教育方針「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」に基づき、専攻分野における専門的知識と技術を修得させるとともに、共通の基礎専門教育としてソルフェージュ・音楽理論・西洋音楽史等の基礎的知識、ならびに広い視野に立って総合的な考察をするために必要な外国語科目・教養科目（保健体育を含む）を教授研究する。また、さまざまなコンサート・オーディション・研究発表等の実践活動への参加、ならびに実習・課外学修・インターンシップ等の現場体験を積ませる。これらの教育研究を通して、思考力・判断力・表現力を磨き、芸術的創造力を養い、さらに、専門家を目指して真摯に音楽活動に取り組む意欲を高めて、演奏家、作曲家、研究者、教育者、芸術活動に関わる企画・運営等に携わる者として、多様な社会の要請に応え、文化芸術活動に貢献する人格豊かな人材を育成することを目的とする。</p>
演奏学科	<p>演奏学科は、器楽・声楽・ヴィルトゥオーゾの3つのコースで構成される。各専攻実技（有鍵・管・打・弦楽器および声楽）に関わる演奏技術と音楽的表現を修得させる。独奏・独唱のみならず室内楽・管弦楽あるいは重唱・合唱等さまざまな演奏形態を学修させ、アンサンブル能力を高めさせる。また、演奏解釈やレパートリーの研究等により楽曲の背景にある文化や歴史への理解を深め、さらに、公開試験・オーディション・学内外で開催される各種コンサート等への出演の機会を通して実践的な経験を積ませ、文化芸術活動に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p>
器楽コース	<p>器楽コースは、実技個人レッスンにおいて、各専攻楽器の奏法の基礎を修得し、これを発展させるコースである。独奏の学修に加え、伴奏・デュオ・室内楽・合奏・吹奏楽・管弦楽等のさまざまな演奏形態や、楽曲とその背後にある文化や歴史を各専攻のカリキュラムによって学修する。さらに公開試験や演奏会等、学修の成果を発表する機会を多く設けて、実践的な経験を積ませることで、より豊かな表現力を身につけさせ、演奏家、指導者として文化芸術活動に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
声楽コース	<p>声楽コースは、実技個人レッスンにおいて、発声法等歌唱の基礎を修得し、これを発展させるコースである。古典から近現代にいたる声楽曲の、それぞれの様式に沿った歌唱法、また歌詞の理解と正確な発音に必要な語学力を修得し、独唱のみならず重唱・合唱・オペラ等の授業を通してアンサンブル能力の向上を図る。さらに、公開試験やさまざまな形態の演奏会等、学修の成果を発表する機会を多く設けて、実践的な経験を積ませることで、豊かな表現力を身につけさせ、声楽家、合唱団員、指導者として文化芸術活動に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
ヴィルトゥオーゾコース	<p>ヴィルトゥオーゾコースは、器楽又は声楽の専攻実技教育、すなわち演奏技術の修得に特に重点を置くコースである。充実した専攻実技の個人レッスン、各種アンサンブルの授業に加え、レパートリー研究や演奏解釈研究等、演奏活動に深く関わる実践的なカリキュラムにより、幅広い知識と音楽性を養い、演奏家としての自覚を促す。リサイタル形式の卒業演奏、数多くの公開試験、および学内外のホールでの実践的な舞台経験を積ませ、多くのレパートリーと高度な演奏能力を備えた演奏家として、文化芸術活動に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
音楽総合学科	<p>音楽総合学科は、作曲・音楽学・音楽教育・アートマネジメントの4つのコースで構成される。各専門分野及び音楽全般の幅広い知識・能力を修得させる。学修に際しては、各コースの専門性を高めるための科目群を履修させるとともに、コースの専門分野を横断した総合的・実践的な学修や実習により、音楽をはじめとする多様な文化芸術活動に貢献できる人材を育成することを目的とする。 専攻するコースは、フィックスメジャーシステムにより入学時に決定することも、また、オープンメジャーシステムにより1年次においてさまざまな視点からの基礎科目の学修を通し自己の適性や興味の対象を確認した上で2年次より決定することも可能である。</p>
作曲コース	<p>作曲コースは、伝統的な作曲技法を基礎としながら、さまざまなジャンルにも対応できるマルチコンポーザーとしての能力を修得させるコースである。芸術音楽・商業音楽の創作を学ぶための授業を取り入れ、オーケストレーション等でアコースティック音楽の専門的な知識や技術を修得し、DAW等でデジタル音楽の制作方法や商業音楽への適応力を身につける。同時に、作曲法のレッスンにより各々の方向性に合わせた指導を受け、作品演奏の機会においては現場での対応能力を学び、専門性と総合力を養う。これらにより、作・編曲はもとより、音楽の分析的研究、吹奏楽等の指導、専門性を活かした企画・制作においても文化芸術活動に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
音楽学コース	<p>音楽学コースは、音楽史、音楽美学、民族音楽学、音楽理論等を学ぶことにより、世界各地の多様な音楽を研究するための基礎を修得させるコースである。音楽学研究で、各研究分野における基礎的・専門的内容を学ぶとともに、音楽の実技や理論、古今東西の演奏実技等の実習を通して、自分が関心を持つテーマを掘り下げ、総合演習では、論文作成や口頭発表の手法を身につけ、それらの集大成として卒業論文を作成する。これら音楽の専門的な知見を生かし、音楽の研究者のみならず音楽評論家、ジャーナリスト、音楽編集・企画者、ライブラリアンとして音楽に関わる社会のさまざまな場で文化芸術活動に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
音楽教育コース	<p>音楽教育コースは、音楽教育学概論をはじめとする音楽教育に関する科目の学修を通して、音楽の指導者として必要となる資質や能力を修得させるコースである。教育活動の基盤となる演奏技術を高めるための実技レッスンや、音楽教育に関する基礎理論の学修と、演習を通して実践的な能力を身につけ、それらの集大成として卒業論文を作成する。音楽教育に関する研究者や学校の教員、音楽教室や音楽関連団体の指導者として文化芸術活動に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
アートマネジメントコース	<p>アートマネジメントコースは、音楽芸術の力によって心豊かな活力ある社会を形成していくための、芸術的感性とマネジメント能力を修得させるコースである。音楽に関する専門的知識と音楽実技の基礎に加え、舞台技術を含む劇場・ホール等に関する事項、演劇・舞踊等の舞台芸術、美術、文化政策や芸術関係の法制、財務のほか、コンピュータによる音楽制作、グラフィックデザイン、文書作成等について学修する。また、学内外における各種の実習を通して現場体験を積ませ、高い芸術的感性と優れたマネジメント能力を養い、音楽をはじめとする各種舞台芸術や音楽文化産業を牽引し、文化芸術活動に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>

## 武蔵野音楽大学音楽学部

### 《学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針》

<p style="text-align: center;"><b>学位授与の方針</b> (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>武蔵野音楽大学音楽学部（学士課程）の目的に基づき、4年以上在学して124単位以上を修得し、以下の知識・能力等を身につけたと認められる者に、学士（音楽）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 専攻分野における基礎的な知識・能力に加え、専門的な能力（演奏学科では演奏能力、音楽総合学科の作曲コースでは創作能力、音楽学コースでは研究能力、音楽教育コースでは教育能力、アートマネジメントコースではアートマネジメント能力）を身につけている者。</li><li>2 正課の授業および正課外でのさまざまな学修体験を通して、豊かな人間性と学修に対する継続的な強い意欲を身につけている者。</li><li>3 自ら考え、創造する能力を育成し、予測することが困難な社会の諸課題に対応できる判断力、コミュニケーション能力等を身につけている者。</li></ol>
<p style="text-align: center;"><b>教育課程編成・実施の方針</b> (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>武蔵野音楽大学の教育方針である「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」を具現するため、音楽学部全2学科に、必修科目、選択科目、自由科目を開講し、各コースの教育目的に適うよう、以下のようにカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 授業科目は原則として4学年を8つに区分した Semester ごとに開講し、各専攻分野に求められる知識、能力等を段階的、体系的に修得できるよう編成する。この際、教養科目は必修科目および自由科目の一部として、全学年を通して履修を可能とする。</li><li>2 専攻実技科目については、個人レッスンにより技量の向上を図るとともに、さまざまな研究発表・演奏等の機会を設け、実践的な体験を積ませる。また、成績評価は実技試験等の結果を踏まえ、別に定めた評価基準により行う。</li><li>3 クラス授業科目については、開設科目の特性および到達目標を踏まえたクラス編成による授業を通して、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション等を重視した教育方法を積極的に導入する。また、成績評価は定期試験等の結果を総合的に勘案し、別に定めた評価基準により行う。</li><li>4 教育的見地から、年次ごとの履修単位の上限を定め、かつ3年次への進級に際しては修得すべき単位を定めた進級基準を設ける。</li></ol>

## 学位授与の方針との関連（音楽学部）

ディプロマ・ポリシーで求められている知識や能力等に項目番号を付記し、開講されている科目との関連について、シラバスに表示させています。

注意：各授業科目において、学位授与の方針との関連がある項目は、学修率の欄に100%と記載されている項目となりますが、この数字については便宜上、すべて一律の数値となっていますのでご了承ください。

ディプロマ・ポリシーで求められている知識・能力等	項目番号
専門分野に関する基礎的な知識・能力に加え、専門的な能力	
(1) 基礎的な知識・能力	
① 音楽理論、西洋音楽史、ソルフェージュ力等、専門家として必要な共通の基礎知識・能力	A 1
② 作曲家・作品等についての知識	A 2
③ 音楽や音楽活動等を通じて培われる感性やアンサンブル能力	A 3
④ 語学力や幅広い教養、資格取得のスキル	A 4
(2) 専門的能力	
演奏能力・創作能力・研究能力・教育能力・アートマネジメント能力	A 5
豊かな人間性と学修に対する継続的な強い意欲	
(1) 他者を思いやる心や忍耐力、社会的責任感等の醸成を通じた自己管理能力	B 1
(2) 継続して学修する意欲と態度	B 2
自ら考え、創造する能力を育成し、予測することが困難な社会の諸課題に対応できる判断力、コミュニケーション能力等	
(1) 自主的な課題解決力	C 1
(2) ① 論理的思考力・判断力・表現力	C 2
② 的確な表現力・他者理解・異文化の理解	C 3
③ 協調性・コミュニケーション能力	C 4